
ちよこバナナ

遊佐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちよこバナナ

【Nコード】

N9636H

【作者名】

遊佐

【あらすじ】

銀ちゃんが近藤を祭にさそって・・・？ドキドキなデートの・・・始まり。

(前書き)

銀時×近藤

『祭・・・行かね?』

まさかね、あんたに言われるとは思わなかったさ。

とある祭の話・・・

「なあー、お妙さんはいねえのー?」

オレは泣きながら言う。

「おう。悪イな（棒読み）」

万事屋が答える。

「ちよっ!!なぜに棒読み!!?」

ま、そんなカンジの話をしながら人ごみの中をぶらついていた。

てか・・・なんでオレと万事屋が一緒に居るかって?

そりゃ・・・万事屋に誘われたからだよ。

お妙さんも連れてくる・・・って言ってたクセによー・・・

万事屋のバカー!!

しかも・・・何!?何で2人つきり!?新八君やチャイナ娘は!?

電話で

『あ、お前さ、1人で来いよ』

って言われてさあ。

あーもうっ!よく分かんねーよっ・・・

「・・・あっ!」

「・・・ん、何だ?」

「いっけねー・・・銀さんたら、ちよこバナナ買うの忘れてたよー。」

「・・・」

「ば、ばばっ・・・バナナだと!？」

オレは、昔のトラウマにより、バナナが嫌いだ。

「おっお前・・・バナナなんかのドコがいいんだよっ・・・!？」
かなり動揺しきっていた。

「んー、だって銀さん、甘いヤツ大好きだしー」

ああ・・・そうか。

万事屋のヤツ・・・極度の甘党だったよなあ・・・

「んん?なんだとー、ゴリラのクセにバナナ嫌いかー?」

万事屋が、ニヤニヤしながら言う。

くっ・・・万事屋め・・・分かってるクセに・・・ううつ・・・!!

「じゃあさ、じゃあさー・・・」

万事屋が・・・続けて、こう言う。

「銀さんのバナナは食えるかー?」

・・・ん?万事屋のバナナだと・・・?

「おい万事屋。それってどういう」

ここで、オレの言葉を遮るように万事屋が・・・

「あはっ、いっけねー・・・下ネタ言っちゃったよ銀さんー!」

・・・ああ、なるほどね・・・

そーゆー意味なのか・・・

・・・ああ、何だろうか、この感情・・・

お妙さん以外の人に恋しちゃいそうな――・・・

「さ、帰るか?」

万事屋が言う。

ボケてて、ハッとしたオレは・・・

「・・・おい、万事屋」

「・・・ん?」

立ち止まり、ふり返る万事屋。

「なんだー？」

「お．．．オレさ．．．」

オレは、息を少し吸って．．．

「．．．お前のバナナなら、食ってやってもいいぞ．．．？／／／」

．．．言っちゃった．．．。

でも．．．でも、これでよかったんだ．．．よね？

「なんだ、なんだあー？可愛いこと言ってくれんじゃーん？」

ニヤニヤしながら．．．オレの顔をのぞき込む、万事屋。

「さ、夜はまだまだこれからだぞっ／／／」

そう言って、照れながら、肩を並べて歩く。

「お、お妙さんには．．．内緒だからなっ／／／」

終

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9636h/>

ちょこバナナ

2010年10月27日14時02分発行